

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名 ：一般国道58号 <small>おんなみなみ</small> 恩納南バイパス	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：沖縄総合事務局
起終点 ：自： <small>おきなわ</small> 沖縄県恩納村字南恩納 至： <small>おきなわ</small> 沖縄県恩納村字仲泊		延長 ：6.5km
事業概要 ： 国道58号は、 <small>おきなわ</small> 沖縄本島西側を南北に走る大動脈で、本島中南部の人口集中地域と北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ主要幹線道路である。恩納南バイパスは、美しい海岸線が続き、リゾートホテル、ビーチなどが集中している本県有数のリゾート地である恩納村内の観光シーズンにおける交通渋滞緩和、国道58号の交通安全確保及び沿道環境の改善、観光産業の支援に大きく寄与する道路である。		
H2年度事業化	都市計画決定不要	H5年度用地着手
		H7年度工事着手
全体事業費 ：360億円	事業進捗率 ：55%	供用済延長 ：4.5km
計画交通量 ：32,300台/日		
費用対効果分析結果	総費用 ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 136/387億円 〔事業費：111/360億円 維持管理費：25/27億円〕	総便益 ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 763/1,789億円 〔走行時間短縮便益：723/1,687億円 走行経費減少便益：29/82億円 交通事故減少便益：11/20億円〕
	B/C ： <small>(事業全体)</small> 4.6 <small>(残事業)</small> 5.6	基準年 ：平成21年
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=7.3（交通量+10%） B/C=4.1（交通量-10%） 事業費変動：B/C=5.2（事業費+10%） B/C=6.1（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=5.4（事業期間+20%） B/C=5.8（事業期間-20%）		
事業の効果等 ： ①円滑なモビリティの確保 ・現道（南恩納～仲泊間）の年間渋滞損失時間の削減（約8割削減） （現況：54万人時間/年→将来（整備あり）：12万人時間/年） ②個性ある地域の形成（観光産業の支援） ・沖縄県へ来訪する入域観光客数（年間604万人）、恩納村内への宿泊者数（年間216万人） ・レンタカー交通量の増加等により、観光シーズンの交通量が通常期に比べて約1割増加【約16億円※】 ・恩納村内のリゾートホテルや各種観光施設間の所要時間が短縮（恩納村リゾート～万座毛間で所要時間が約2割短縮（約4分）） ③安全かつ快適な暮らしの支援 ・現道（南恩納～仲泊間）の年間交通事故死傷者数の削減（約4割削減） （現況：40件/年→将来（整備あり）：26件/年） ・地球環境の保全（CO2排出量の削減：H42時：20.8千t-CO2/年）【約7億円※】 ・地球環境の保全（NO2排出量の削減：H42時：70.9t-NO2/年） ・地球環境の保全（SPM排出量の削減：H42時：6.6t-SPM/年） ※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）		
関係する地方公共団体等の意見 ： <small>おんなみなみ</small> 恩納南バイパスの整備により、交通渋滞の緩和、交通安全の確保、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上が期待されており、 <small>おんな</small> 地元恩納村等から早期整備の要望を受けている。 県知事の意見 ： 国道58号恩納南バイパスの再評価につきましては、県といたしましても事業継続することが望ましいと考えています。恩納南バイパスの完成により、恩納村内の交通安全や沿道環境の改善はもとより、開学を予定している沖縄科学技術大学院大学や観光リゾート地への連絡機能が強化され、さらには移動時間の短縮や交通混雑の緩和など、本県の地域活性化及び観光振興に大きく貢献するものと考えています。 つきましては、恩納南バイパスの全線完成供用に向け、整備の促進に特段の配慮をお願いいたします。		
事業評価監視委員会の意見 ： <small>おんな</small> 本事業については、恩納村の交通渋滞緩和を目的としており、必要であることは承知した。事業の投資効果についてもB/Cの全体、残事業とも問題ない		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 年々交通量が増加し、特にレンタカー交通の増加が顕著な夏季観光シーズンをはじめとして、近年、激しい渋滞が発生している。
→交通渋滞の緩和
- ・ 恩納村における延長あたりの死者数は全国的にも多く、国道58号沿道に民家が密集している中、大型車交通も多く、交通安全上や住民の利便性、沿道環境の悪化等の課題がますます深刻になっている。
→交通安全の確保・沿道環境の改善
- ・ 恩納村は県内屈指のリゾート地であり、来訪する観光客の年々の増加に伴い、ホテルや各種観光施設の整備も進んでおり、さらなる観光支援が必要である。
→観光産業の支援

事業の進捗状況、残事業の内容等

全体事業費での進捗率は約55%、用地買収の進捗率は約93%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成21年11月1日に一部区間暫定2車線で開通し、部分暫定開通の一定の効果も発揮されている。今後は早期事業効果発現を図るため、全線2車線暫定供用に向けて、鋭意事業の進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 道路幅員や構造形式の見直し【約38億円減】
- ・ 地質調査の結果、法面対策の追加及び小動物保護の為の環境保護対策の追加等道路構造の部分見直し【約22.5億増】
- ・ 残土処分の計画変更等施工方法の見直し【約25億増】

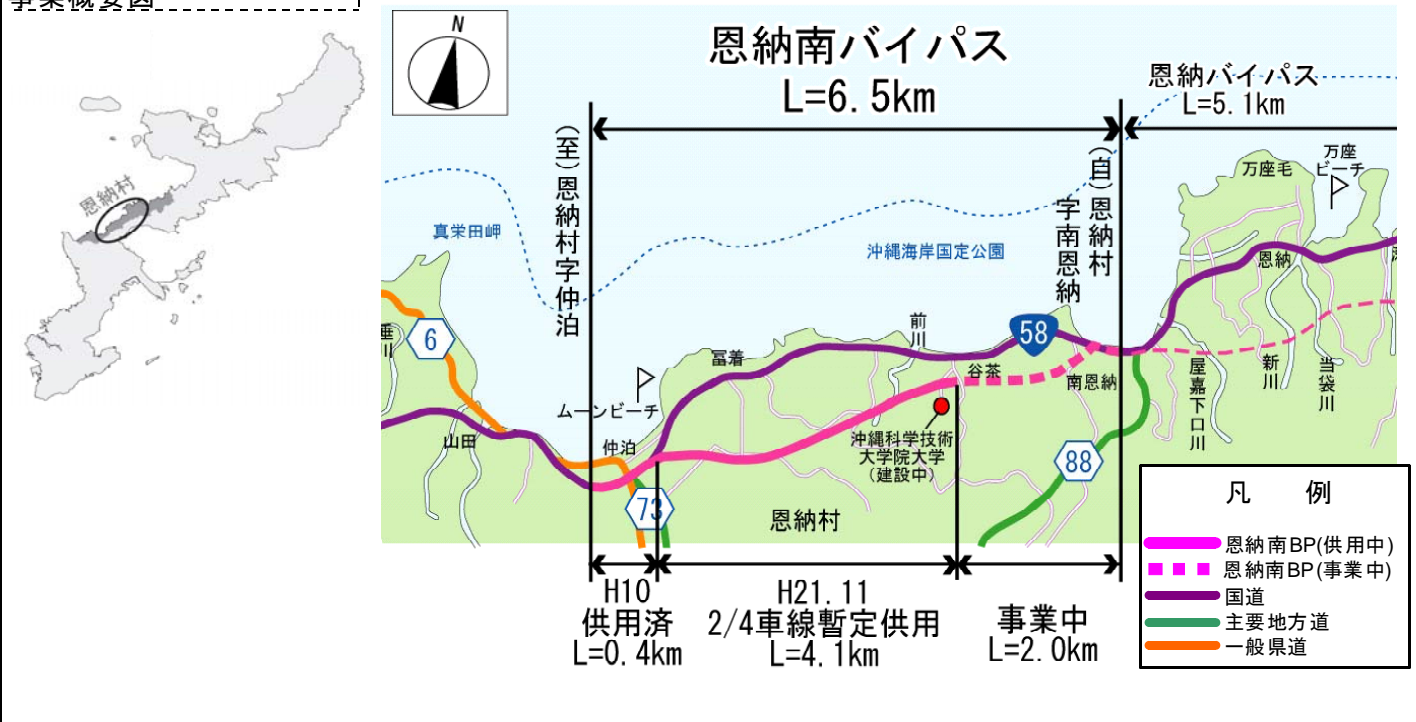
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議等を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。